

# レコード秋 軽術



[ 今月のアーティスト ] 小泉真紀子



# 中央アジアに平和を！



## 多国籍オーケストラ団員募集！

国連本部国際会議場でポロディン作曲《中央アジアの草原にて》を演奏します。録音はCD化され、売り上げは難民支援に役立てられます。

宗教・出身地不問。



# 新世紀を迎えたアカデミー室内管弦楽団

The Academy of St Martin in the Fields



1959年にネヴィル・マリナーにより創設され、日本ではアカデミー室内管弦楽団として親しまれてきました。21世紀を迎え、フル・オーケストラへと発展、より広いレパートリを得ることになりました。

新生アカデミー管弦楽団は、創設者の名を冠し、

## マリナーズ管弦楽団

となりました。

日本からも名プレーヤたちが入団、今後にご期待下さい。

トロヴァトーレで  
デビューする

## 小泉真紀子さん



小泉真紀子さんは、このたび上演されるヴェルディの歌劇「トロヴァトーレ」のアズチエーナ役に決まった新人メゾ・ソプラノ歌手。三〇倍の競争を勝ち抜き、見事役を得るまでの裏話を目白のお宅で伺った。

■このたびはおめでとうございます。選考されるまでにいろいろ苦労をされたのでしょうか？

**真紀子** 音楽界にも派閥がありますからね、その中で順番を待っているだけではいつまで待っても自分のところに回ってきません。思い切って存在をアピールしてみようと思ったのです。

■そのきっかけは？

**真紀子** だって、ほら、私いい名前でしょう？この名でアピール出来るのはそう長くない、今だと決心したのです。それからヘヤー・スタイルを変え、しゃべり方もべらんめい調を取り入れ、いわば役作りに入ったのです。ジブシー女役には絶対でしょ（笑）。

■で、すぐに効果が現れましたか？

**真紀子** みんな初めのうちは変身ぶりにびっくりしていたみたい。でも、私がこういうことをやっても所詮自分のものでないからボロが出てしまうのね。

■といますと？

**真紀子** 私、あまり頭が緻密でないの。だから、その場では言うことに迫力があっても、あとで辻褃が合わなくなっちゃうことが何度も。それに、甘ったれなところがあるから、強がり言っておきながら失敗するとすぐ人のせいにするの。

■それでも人気があればいいでしょう。

**真紀子** でも、私、本当に好かれる人に見られたかと思ってしまう。その場を盛り上げようとして言ったのに人を傷つけたり、背伸びすると口クなことはありませんねえ。やっぱり心の温かさが足りないんですね。親が有名人だったりすれば許される場合もあるんでしょうが。

■今後のご予定は？

**真紀子** 望みの役をやることになっただけで満足しています。これからは元の真紀子に戻って音楽に専念したいと思います。



会ってみるとこれがアズチエーナをやる人かと思わせるほど繊細な人だった。それぞれの真紀子さんに注目していきたい。

新譜  
月評

## 交響曲

宇野咆吼

## ベルリオーズ…《幻想》

小泉変一朗指揮

永田町管弦楽団



永田町管弦楽団を小泉変一朗が振るようになってから、演奏会はいつも満員だそう  
だ。何しろカッコいい、髪型がベートー  
ヴェンみたい、振り方が思い切りがいいと

か、女子高校生の間でも人気が出ている。ただし、聴衆の大半は永田町管弦楽団を聴きに来るのではなく、小泉を見に来るだけなのだ。小泉のおかげで永田町管弦楽団が変わったかどうか評価されるのは、恐らくこのブームが去ってからだろう。

収録されたときの演奏会は前もって出たCDつき写真集のせいもあってか、立ち席も出るほどの超満員。オーケストラを聴くのは初めてという人も多かったのだろう、

楽章間ですべて拍手が入り、異様な熱気のもとで行われた。

小泉の音楽性は表面的には説得力があるように見えるが単調である。歯切れのよいアクセントに好感は持てても、その使い分けがまずい。一つ一つのフレーズが全体にどうかかわるかでアクセントの使い分けがなされるべきなのに、どの部分を取り出しでも同じように聴こえる。この点におも課題を残しながらも現在の人気沸騰ぶりは本人のためにも永田町管弦楽団のためにも、果たしてよかったか、問題である。

演奏であるが、聴かせどころの第四楽章

【録音評】 今回のライブ録音には機材を一新、新しい音質を届けるとスタツフは胸を張っていたが、結果はほとんど変わり映えしない。マイク配置やミキシングの担当者も留任したため音響は以前の流れを汲むものになった。左右の広がりにも乏しく、右チャンネルにノイズが多い。

「断頭台への行進」で番狂わせが起こっている。全奏に入る前の管楽器の絡みで大きくテンポを落とすパートがあり、アンサンブルの乱れを立て直しきれないうちにクライマックスが終わってしまった。このような事態は防げなかったとは思えない。一部のパートが計画的にやったのではあるまいか。断頭台へ上らせたいのはだれか、不気味な終わり方だった。

このような抵抗勢力を抱えていては、小泉の唱えている計画は文字通り幻想に過ぎなくなるのであるまいか。

新譜 月評

## 管弦楽曲

藤田由々

キー・田中（指揮とピアノ） 霞ヶ関外務シンフォニカ  
 ガーシュウィン…《ラプソディ・イン・ブルー》 R・シュトラウス…《英雄の生涯》 マツ



今や大人気。まさに中堅から巨匠の域に入ろうとする、マツキー・田中のライヴ録音が登場した。日本と米国で学び、日本音楽界の巨匠だった父である故・田中角兵衛氏の後を継いだ、サラブレッド指揮者兼ピ

アニストである。

このマツキー・田中、実力はあるそうなのだけれど、曲により演奏指針が極端に変わる。このディスクでもその「変節対応」が如実に掴める。

自らがピアノを弾き指揮もしたガーシュウィン。何と鮮やかで明快なラプソディ・イン・ブルーなのだろう。ピアノも管弦楽も、実に歯切れが良い。素晴らしい推進力。さらにピアノが管弦楽を恫喝し、曲の細部まで明らかにしながら、自分の意志を徹底的

に主張して、半ば強引に演奏を進めている点が凄まじい。こうした演奏体制が、聴衆の耳に心地よく響き、現在の大人気につながっているのだろう。プライドばかりが高くマンネリ演奏を続けてきたこの楽団から、よくぞここまで響きを引き出したものがある。

それに反して、英雄の生涯は期待はずれ。マッキー自信が「父の想い出のために演奏する」との意気込みを見せていたのだが、何とも情けない英雄の生涯となった。

確かに出だしの勢いは凄まじい。英雄の主題を「これでもか」と叩き付ける。しかし、その後がいけない。ちよつと声部が交錯すると、響きが不明瞭になる。それもか

なりの箇所だ。しかし最大の欠点は、曲全体を通して聴いたとき、何を主張したいのかが、指揮者の意図が聴衆にまったく伝わってこない点だ。

しかもこの演奏、妙な箇所がある。三番のフルートとオーボエ、七番と八番のホルン、そしていくつかの打楽器などが、まったく聞こえてこないのである。演奏会のプログラムを見ると、奏者の頭数は揃っている。それなのに、いくつものパートが完全に欠落している。どうやらこのオーケストラ、楽員の増し処理をしているとしか考えられない。以前からその噂はあったが、この録音でそれが露呈してしまったようだ。

### 【録音評】

東京文化会館大ホールでの実況録音。左右の広がり幅が捉えられている。しかし奇妙なことにガーシュウインではどのパートも明瞭に分かるクリアな録音であるにも関わらず、シユトラウスではあちこちで音像がぼけている。演奏者の不都合を録音で誤魔化そうとしたとしか思えないテイクである。

新譜月評

## 室内楽曲

諸君幸生

■ドヴォルザーク…弦楽四重奏曲 《アメリカ》 ブッシュ四重奏団



ブッシュ四重奏団が本誌に登場するのは一九八九年、一九九二年に続きこれで三回目である。今回はファースト・ヴァイオリンが息子のジョージ・ブッシュに代わって

いる。曲はおなじみのドヴォルザークの「アメリカ」。彼らの十八番とされる名曲だ。

それにしても、この団体、ファースト・ヴァイオリンが交代するたびになぜかトラブルが起きる。今回は彼らがマスコミおよびネット上で多くの中傷を浴びた。彼らが「ならずもの評論家」と呼んできた連中よりさらに悪質な一派から攻撃を受けたらしい。それに対抗して「不朽の名曲作戦」と銘打ったシリーズの第一弾がこのCDである。

演奏は高度な技巧に支えられたパワフル

なもの。スケールが大きい。ただ、正義だとか、勇気だけでこの曲が語られようか。彼らの長所でもある若さがここに物足りなさとなつて現れる。一層の深みに向かつて精進することを願いたい。

解説には彼らのメッセージが添えられている。CDの代金を払うだけでなく、演奏会場に来て顔の見える援助をして欲しいとか、このCDを選択することは中傷を許すか、音楽文化を守るかの選択であるとか、あれもこれもといたい要求が文面から伺える。

彼らの気持ちはわからぬではないが、評者からひと言いいたい。それは、この文に現れている姿勢自体が彼らがいろいろ攻撃を受ける原因になつていいるのではあるまいか。彼らのいう正義の押しつけはもうたくさんという人も多いだろう、ましてや価値観が根本的に異なる人にとつてはどう受け取られるだろうか。

演奏会を聴きに行かなくても、ほかの団体のCDを買おうと、仲間はずれになるようなことはないだろう。それぞれの判断を尊重したい。

【録音評】 九月十日、ニューヨークの世界貿易センターの大会議場で録音。その場で夜を徹しての編集作業に入った。デジタル編集された5GBにのぼる最初のバージョンがインターネットで本社へアップロードされ終わったのが翌朝の八時四四分だったという。ファースト・ヴァイオリンの位置が定まらない難点があるが、急いだ割には完成度が高い。

天から恐怖の大王が降りてきた！

我、予言成就のために  
生まれ変わりぬ



—昨年の本誌で広告したCD（左）は予言が外れたため多量に売れ残りしました。その後原書の解読が進み、2年2ヶ月遅れでノストラダムスの生まれ変わりが予言を実行することが判明。CDはリニューアルして再発売となりました。

ノストラダムス・レーベル独占販売  
五島音楽事務所

国の経済政策の犠牲になった方たちに心から哀悼の気持ちを捧げましょう。

CDの売り上げは慰霊碑の建造にあてられます。

鎮魂の曲を聴きながら、なくなった方を偲び、わが国の経済を立て直しましょう。



東京・九段に建設予定の慰霊碑です



この慰霊碑には、民間企業に在職中に病死または自殺された方の霊がまつられています。ただし、次の方は含まれません。

**A級**

前職がキャリア官僚

**B級**

前職が特殊法人の役員

**C級**

前職が公営企業の役員

# 完全耐火 CD庫 新発売

大切なCDを火災から守る



既存のCD棚の小改造で取り付けられます。



## 技術のポイントはここ！

周囲温度が200℃を超えると上部の連結金具が溶け、本体が床に落下、火炎にあぶられることを防ぎます。最も大切なCDはこの中に入れておきましょう。

雑誌付録など聴かないCDを5枚で新品CD1枚を引き換えます。  
さらにその中から抽選で5名様に耐火CD庫をプレゼント！

CD引換券

オントモグループ

有効期限 2001.10.1

## 編集後記

発行間際に大事件発生。地下鉄サリン事件のときもそうでした。パロディを愛する方ならば、戦争だ、報復だと走り出す前に冷静に考えてみたことでしょう。

ブッシュ四重奏団のブッシュのスペルについて「違いがわかる」人は少数かもしれませんが、でも、こういう隅っこの細工が面白いという人のために入れてあります。

今回はかずみさんから管弦楽評の原稿をいただきました。

バックナンバーのハイライトおよび本誌発行に絡むエピソードなどは <http://www3.ocv.ne.jp/yanagawa> で見ることができます。

レコード軽術 2001年秋号（通巻第28号）

2001.10.5 第1刷発行

2002.4.1 PDF版発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp（パプロ小川）

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

